

くらしと協同の研究所
第 18 回総会 議案書

開催日 : 2010 年 6 月 26 日 (土) 午後 5 時 40 分～6 時 30 分

※ 記念シンポジウムは、午後 1 時 ～ 開催です。

(詳細は、別紙案内をご覧ください)

会 場 : コープイン・京都

京都市中京区柳馬場蛸薬師上ル (Tel 075-256-6600)



くらしと協同の研究所

〒604-0851

京都市中京区烏丸通夷川西九軒町 291 せいきょう会館内

TEL 075-256-3335 FAX 075-211-5037

Email kki@ma1.seikyoku.ne.jp (← ma1 の 1 は数字です)

URL <http://ha1.seikyoku.ne.jp/home/kki/>

第 18 回総会議案と議事次第

議 案	第 1 号議案	2009 年度 活動のまとめ、会計報告
	第 2 号議案	2010 年度 活動方針及び予算

議事次第	一、開会挨拶と議長確認		
	二、議事録署名人の選出		
	三、議案提案と審議、採決		
		第 1 号議案、第 2 号議案の提案	
		同	審議
	同	採決	
	四、理事の補充選出		
	五、閉会の挨拶		

※総会終了後、懇親交流会を開催いたします。

くらしと協同の研究所

第 18 回総会 議案書

はじめに

世界経済はリーマンショックの影響から立ち直りつつあるが、依然として調整局面にある。日本が GDP 世界第 2 位になった 1968 年が世界史の転換点だったのと同様に、中国が GDP 世界第 2 位になろうとしている現在、世界は構造的変化の中にある。政治、経済、社会(家族やコミュニティ)のあらゆる面で制度の転換が進んでいる。制度転換が遅れている日本は依然、人口減少、デフレから脱却できないでいる。

この制度転換の象徴として「新福祉国家」、「新しい公共」といった言葉が使われている。新しい経済成長や所得配分のモデル、家族と自治体の新しい役割分担をめぐる議論されている内容がそれである。そして、これらに共通するキーワードが“環境”であり“地域”である。環境・資源・エネルギーの制約がライフスタイル(人々の価値観や需要構造)の変化を避けられないものになっている。脱自動車、環境制約が利便性に勝ったこと象徴するように、ライフスタイルはもはや選択の対象ではなくなっている。制度変化の基礎には、このライフスタイルの変化がある。

地域への関心が高まっているのは、環境の制約とライフスタイルの変化によって地域社会(コミュニティ)や家族が流動化していて、その変化への対応があらゆる組織に求められているからである。現実の問題が起きているのは中央ではなく地域である。政府にもの言う自治体、地産地消への期待が高いのもそのためである。

制度転換の一環として、地域社会(コミュニティ)のニーズや要求に応えることができる組織への変化(自己革新)や世代交代が進んでいる。協同組合もコミュニティのニーズや要求に応えることによって成長してきた。コミュニティのニーズや要求の変化に対応できるか否か、ここに協同組合の真価が問われている。

2009年度 活動のまとめ、会計報告

1. 全体まとめ

(総会記念シンポジウムと今後の研究課題)

- ・ 昨年の第17回総会記念シンポジウムは、「危機の時代における協同組合の課題～多様な地域のあり方に対応して協同の形を創造するマネジメントはなぜ必要か?～」をテーマに、基調提起と講演そしてシンポジウム、4つの分科会と1つの研究交流会という構成で開催しました。
- ・ シンポジウムでは、4人のシンポジスト(4つの分科会の座長)から、前日の基調提起と各分科会での論議内容をふまえた報告が行われ、これからの協同組合の課題として「多様な地域のあり方に対応した「協同の形を創造するマネジメント」などについて議論が深められました。
- ・ シンポジウムのまとめでは、ミッションを「持続的に実現(あるいは継続)していくことができる仕組み・人たち・文化をつくる」必要性や、組合員も含めた「学習する組織」のあり方などについての問題提起があり、さらに研究所の課題としては、①マネジメント研究の幅を広げること、とりわけ、ミッションを持続的に実現していく仕組みについての本格的な研究、②様々な社会制度についての研究とその生協運動への影響の研究、③協同組合のあり方と制度・法制問題などの研究の必要性が提起されました。
- ・ 2009年度の事業活動は、これらの課題提起も踏まえた方針にもとづき次のように具体化がはかられました。

(研究会活動と調査活動)

- ・ 特別研究会ならびに自主研究会では、食生活・ライフスタイルと購買行動、家族、福祉や医療、安心して暮らせるコミュニティの形成と協同組合の役割など、くらしと協同にかかわるテーマでの研究会活動が進みました。また、総会后、自主研究会として新たに生協経営研究会が発足し、生協への調査活動が実施されました。その一方で、11ある自主研究会のうち、2つで諸般の事情により研究会が開催されない状況もありました。
- ・ 研究会での調査活動として、
 - ① 「くらしの調査プロジェクト」(特別研究会)が、京都生協組合員へのアンケート調査結果と実際の利用データをもとに、ライフスタイルと価値観、購買行動などについての分析・研究をすすめました。
 - ② 現代家族研究会(自主研究会)がコープしがの協力を得て、昨年の予備調査に続いて、無作為抽出アンケートによる「家族調査」を実施しました。
- ・ 京都生協からの受託事業として、「2009年度組合員満足度調査」を実施しました。これは、京都生協第6次中計にある「組合員満足の向上」についての定量的評価を得ることを目的に行われているもので、昨年に続いて2度目の調査になりました。

(研究企画、セミナー)

- ・ 研究委員会や理事会の企画の一部を公開という位置づけで開催しました。
今年は、第17回総会記念シンポジウムの内容とその後の運営委員会の問題意識をもとに、「新政権のもとで農政はどう変わるか」、「気候変動問題の核心と持続可能な地域社会への展望」などのテーマで開催し、研究委員や会員を中心に学習と討議の機会をもちました。
- ・ 研究所の会員生協などで取り組まれている、通称「おしゃべりパーティ」のもつ意味を深め、発展方向を検討するために「第3回おしゃべりパーティ研究交流会」を開催しました。
今回は、実施生協や組合員への事前ヒアリングやアンケート調査などをおして、パーティ開催後の組合員の暮らしやつながり方の変化をとらえ、生協の取り組みなどをより一層進化させる視点から、研究所からの3つの報告および、実施生協担当者からの報告、全体討論という構成で開催しました。参加生協からは今後の取り組みにもつながる、など好評のうちに終えることができました。
- ・ セミナーとしては、「第11回生協組合員理事トップセミナー」を開催しました。
今回は、講演をもとに、改めて生協の組合員理事の立脚点は何かの理解を深めました。また、4つのゼミナールでは、ゼミ課題と結びつけて、ものごとを多面的・客観的にとらえる力を身につけることを主眼に設計されました。全体の企画は、会員生協の呼びかけ人を中心に、研究委員や研究所会員の協力を得て策定し、セミナー参加者からも好評を得ることができました。

(出版物の発行)

- ・ 『協う』は、定期発行を確保しました。毎号、編集委員会が中心となって、研究所内外の研究動向や社会情勢、生協と生協を取り巻く状況を視野にいた企画となって進められています。
会員読者からは、好評価を得て誌面の活用の声も寄せられていますが、さらに読みやすく、身近なものにしていくことが求められています。
- ・ シンポジウムの研究会の成果を中心に、通巻本、ディスカッションペーパー等の編集、発行をすすめました。
研究会の成果なども適時にまとめ、その発行をとおして会員内外への研究情報を発信することがさらに求められています。

2. 第17回総会記念シンポジウム

- ① 「危機の時代における協同組合の課題～多様な地域のあり方に対応して協同の形を創造するマネジメントはなぜ必要か～」をテーマに、2009年6月27～28日に開催しました。
- ② 今回も実行委員会を中心に、事例調査をすすめながら企画を準備しました。

2008年11月運営委員会より、検討スタート
実行委員会 計4回
主な調査活動 9回 準備に関わる研究会 1回

3. 研究会

※以下の開催状況は 4/28 現在のものです

(1) 特別研究会

くらしの調査プロジェクト

代表:玉置了氏(近畿大学)ほか 5 名

(ア)プレ・プロジェクト(06年10月~09年4月)は、2007年10月に実施した「プレ調査」の結果をもとに、本調査を設計し、09年4月に「本調査調査票」の完成をもって発展的に終了しました。

(イ)本調査(アンケート)は、09年6月に「くらしの調査アンケート」として、京都生協の協力をいただき、組合員1500人を対象に実施しました。8月には、アンケート回答者の同意のもと、京都生協の協力を得て回答者の利用データを提供いただきました。

(ウ)「くらしの調査プロジェクト」としては、09年9月に発足しました。メンバーは、プレ・プロジェクトからの継続メンバーに加え、あらためて公募も行ないました。

メンバー:福永晋介氏(京都生協)、吉田実氏(コープきんき)、工藤直樹氏(コープきんき)、山本真弓氏(京都生協)、金山修氏(京都生協・新)、大角尚子(事務局)

(エ)「くらしの調査アンケート」概要

- ・ 実施時期:09年6月15日より配布
- ・ 配布対象:京都生協組合員で直近3ヶ月間に利用のある組合員無作為抽出
- ・ 配布人数:1500人
- ・ 回収枚数:631通(回収率:42.0%)
- ・ アンケートと回答者の利用データ(無店舗・店舗)を紐付けして分析

<研究会として最終的に提起したい事項>

- ・ 食品の消費に関する意識・行動の差異と生協の商品利用と品揃え
- ・ 生協の社会的使命・存在意義に共鳴する組合員に対する品揃えのあり方
- ・ 組合員の属性の差異と消費をとりまく環境(環境・安全安心・家計・食料自給)への意識の差異など

(オ)研究会の開催状況

9/15 研究会のメンバーとプロジェクトの方向性の確認

11/10 アンケート分析

12/17 アンケートと回答者利用実績の分析

01/14 同上

02/22 同上

03/23 同上

(カ)研究会報告については、第18回総会にて概要を報告し、後日理事会において正式に報告を行ないます。特別研究会としては09年度総会をもって終了しますが、それ以降、報告書作成等の残る実務を完了次第、実質の終了とします。

(2) 自主研究会の開催状況

① 生協と福祉研究会

代表:上掛利博氏(京都府立大学)、ほか6名

(ア)研究テーマ・趣旨

多様な地域と協同組合の福祉のあり方を考える

(イ)研究会の開催

- 04/27 ちばコープの福祉活動を取りまとめた「このまちでともに暮らそう」
- 06/1 同上(報告)
- 07/6 上野千鶴子の論文(『at8号』、『at9号』)をもとに「協セクターによる参加型福祉」の優位性などについて報告 上野千鶴子『おひとり様の老後』についてのコメント
- 09/11 研究会の今後のすすめ方
- 10/18 生協の福祉の到達について～生協から集約した資料をもとに
- 11/18 メンバーからの問題提起
- 12/10 報告「生活協同組合の福祉活動と事業について～“生協福祉”から“福祉の協同組合”へ～」
- 01/21 『居住の貧困』(本間義人著 岩波新書)の書評
- 02/22 「生活保障 排除しない社会へ」 宮本太郎著 岩波書籍の書評
- 03/23 オレンジコープ(泉南生協)視察
- 04/6 オレンジコープ訪問の振り返り
賀川豊彦のビデオ『賀川豊彦とその時代』鑑賞

② 現代生協研究会

代表:田中秀樹氏(広島大学)、ほか8名

(ア) 研究テーマ・趣旨

現段階の生協の存在形態と展開方向についての実証的研究

(イ) 研究会の開催

今年は開催されませんでした。

③ 現代家族研究会

代表:中川順子氏(立命館大学)、ほか4名

(ア) 研究テーマ・趣旨

現代家族の家族構成や地域でのつながり方(家族資源)などについて調査研究をすすめます。

(イ) 研究会の活動と開催状況

コープしがの組合員対象「家族調査」の予備調査を実施し、その分析をもとに、本調査の実施にむけたアンケートの検討をすすめました。

予備調査は、第1～第7のエリア協議会の組合員メンバーとそのつながりを対象に「家族調査」を実施し、1月にはコープしがに「中間まとめ」を提出しました。

コープしがの組合員対象「家族調査」の本アンケートを、2010年3月に実施しました。

配布:1500通、回収 4/26 現在 396通

研究会の開催状況

8/1、8/17、9/5、11/15、1/8、1/15、1/23、2/5、2/15、4/8

④ えひめ・くらしと協同の研究会

代表:富長泰行氏(愛媛医療生協)、ほか7名

(ア) 研究会の開催

今年は開催されませんでした。

⑤ 土佐くらし研究会

代表:玉置雄次郎氏(高知短大)ほか4名

(ア) 研究会の開催

開催/9/10 村田武研究委員の話題提供 ※この会は高知大学の学生や教員も参加して開催された。

⑥ 食育活動研究会

代表:あざみ祥子氏(コンシューマーズ京都)、ほか11名

(ア) 研究テーマ・趣旨

「食育とは何か」「望ましい食育活動」「京都らしい食育の提案」をライフステージにあわせて継続して調査研究しまとめる。

(イ) 研究会の開催

4/2「09年度のまとめとメンバーの活動交流及び10年度の研究課題の検討」

⑦ 生活圏市場研究会

代表:三好正巳氏(立命館大学名誉教授)、ほか6名

(ア) 研究テーマ・趣旨

組合員の生活圏の構造や行動の調査研究を通じて地域性を持った生活財市場の形成と展開を追究します。

(イ) 研究会の開催

- 7/11 報告「生活圏市場の仮説構築に向けて一事業連合の可能性と制約を考える」、「生活圏市場からみた事業連合の問題」
- 8/29 報告「姫路医療生協の事業活動について一到達点と展開」
- 10/17 「ドイツ・イタリアの農業・農村とEU共通農業政策(CAP)の調査報告」
- 12/26 報告「報告 EU の農業と農業政策を考える」
報告「生活圏市場論への協同組成的1試論—賀川の「足跡」から」
- 1/24 報告「京丹後市大宮町常吉百貨店の現状と評価」
- 2/20 報告「準市場とは何か」
- 4/3-4 京丹後市大宮町常吉百貨店奥大師、明日のむらづくりの現状と課題について訪問調査

⑧ 地域と医療研究会

代表:高山一夫氏(京都橋大学)、ほか2名

(ア) 研究テーマ・趣旨

健康格差社会における望ましい健康医療政策のあり方と非営利・協同組織の役割

(イ) 研究会の開催

- 6/27 研究所総会・シンポジウム、第5分科会(交流会)を開催
- 10/23 テキスト作成に関する打合せ(立命館大学)
- 12/4 第4回研究会(於、生協会館)
 - ・話題提供「医療政策決定システムの変化」高山一夫
 - ・テキスト作成に関する打合せ
 - ・最近の研究活動の交流

⑨ 食の懇話会

代表:北川太一氏(福井県立大学)、ほか6名

(ア) 研究テーマ・趣旨

食と農をむすぶために 一川上から川下まで

(イ) 研究会の開催

- 7/31 総会分科会の振り返り&ディスカッションペーパーについて
- 10/13 辻村報告「タンザニア調査～フェアトレードコーヒーの現状」
ディスカッションペーパーの現行整理
※研究会報告の Discussion Paper(11/27 発行)
- 12/17 『食料自給率のはなし』(コープ出版)読後感の意見交流
- 1/24 研究委員会参加者報告
- 2/2 新メンバーの研究報告、1/24 研究委員会の振り返り
- 4/13 全国産直研究交流会報告、総会シンポ・分科会の企画検討

⑩ 尾崎芳治経済思想史サロン

代表:久保建夫氏(研究委員)、ほか7名

(ア) 研究テーマ・趣旨

尾崎先生の深い歴史認識と広い学識から学んで、世界とくらしのかかわり、そのなかで生活者の歴史的な性格と生活協同の意義を考える。

(イ) 研究会の開催

- 7/20 「アメリカの政権交代の歴史的な位置付け」
- 10/21 「歴史の見方」
- 11/1 「歴史の見方ービッグバンから人間社会の歴史へ」(サロン・イン徳島)
- 12/28 これまでの活動の振り返りと今後について

⑪ 生協経営研究会(新設)

代表:若林靖永氏(京都大学大学院経済学研究科教授、研究委員)

- (ア) 昨年7月の運営委員会で、「総会・シンポの振り返り」と「今後の研究活動について」の論議を行い、継続的な生協研究の一分野として生協経営研究会を立ち上げる方向を確認し、発足にむけた調整を進めた結果、11/19に次のようなメンバーで発足することになりました。

〔研究会メンバー〕

齊藤雅通氏(当研究所研究委員、立命館大学経営学部教授)
二場邦彦氏(当研究所研究委員、立命館大学名誉教授)
細川 孝氏(龍谷大学経営学部教授、会員)、
仲田正機氏(京都橘大学現代ビジネス学部教授、会員)

(イ) 研究会の開催

11/19 研究会名と代表者確認、研究の進め方・調査生協の検討と確認
3/2 コープさっぽろ調査についての事前学習
3/29-30 コープさっぽろ調査

4. 研究企画、セミナー、受託調査研究

(1) 研究企画

① 第1回研究委員会(10/24)

テーマ「マネジメントの視点から見た協同組合の調査・研究のあり方と
研究所の課題」

報告1 的場信樹氏(当研究所理事長・研究委員、佛教大学教授)
「私の体験的マネジメント論—新しい10年に向けた研究所の課題」

報告2 若林靖永氏(当研究所常任理事・研究委員、京都大学 大学院教授)
「マネジメントとは何か、そして生協のマネジメントとマネジメント研究の
面白さ・難しさ」

報告に対するコメント

二場邦彦氏(当研究所研究委員、立命館大学名誉教授)

討 論 --- 司会／上掛利博氏(研究委員会代表、京都府立大学教授)

② 第3回おしゃべりパーティ研究交流会(11/14)

- ・ 今回は、「パーティのもつ意味と今後の発展方向」をテーマとして開催しました。
- ・ パーティ開催と各生協の開催キャンペーンのその後—「祭りのあと」—を掘り下げ
ることをねらい目として、パーティ開催による組合員の暮らしやつながり方の変化、
生協のフォローアップの取り組みなどを事前に調査し(アンケートの実施とヒアリン
グ)、3回目を迎える研究交流会の内容をより充実させることを目指しました。
- ・ 討論では、研究所からの報告と問題提起、各生協の実践と参加者の問題意識が
かみ合い、生協がパーティを実施することの社会的な意味や生協にとっての意味
を、さらに深めることができました。

<準備経過>

- ・ 7月運営委員会—開催とすすめ方の確認
- ・ 打合せ会議—8/4、9/8
- ・ パーティ実施生協への調査協力の要請(9/18～)
- ・ 研究所として実施した調査活動
 - (1) コープしが／パーティ開催組合員へのアンケート調査
 - (2) 京都生協／パーティを開催した組合員理事への聞き取り調査
 - (3) コープぎふ／パーティを開催した組合員理事への聞き取り調査
 - (4) 各生協の「パーティ終了後の取り組み」についてのアンケート調査

<当日のプログラム>

- 開会あいさつとまとめ、及び進行／浜岡政好氏(研究委員)
 - 研究所からの報告、問題提起
 - ・ 報告／清水 隆氏(研究所事務局長)
コープしが「ぱくぱくパーティ」アンケート調査結果について
 - ・ 問題提起1／上掛利博氏(研究所研究委員会代表 府立大学教授)
「つながり」を取りもどして「新しい人間関係」の社会へ
 - ・ 問題提起 2／中川順子氏(研究所研究委員 立命館大学教授)
地域社会の状況とパーティに集う組合員像、そこでのパーティの意味
— 3生協の聞き取り調査をふまえて
 - 参加生協からの報告と討議
「パーティのもつ意味と今後の発展方向」をテーマに意見交流
- <参加> 5生協14名、研究者3名、事務局4名(計21名)

③ 第2回研究委員会と公開研究会(1/24)

- 基調報告 「新政権のもとで農政はどう変わるか」
小池恒男氏(当研究所理事、(社)農協開発研修センター副会長
理事、滋賀県立大学名誉教授)
- 課題別報告 「どのような農政改革が必要なのか」
村田 武 氏(研究委員、愛媛大学社会連携推進機構特命教授)
「国民の農業・農協観と民主党の農業政策」
増田佳昭氏(研究委員、滋賀県立大学環境科学部教授)
- 全体討論

(参加)--- 26名(研究委員15名、ほか事務局含め11名)

④ 第3回研究委員会と公開研究会(3/27)

- 報告「持続可能な地域社会～気候変動と新しい福祉社会への展望」
植田和弘氏(京都大学大学院経済学研究科教授、当研究所会員)
- 全体討論

(参加)--- 28名(研究委員15名、ほか事務局含め12名)
(会場)ハートピア京都

⑤ 第18回総会記念シンポジウムの企画検討をスタートしました。

実行委員会の開催

第1回(2/12)、第2回(2/26)、第3回(3/15)、第4回(3/30)、第5回(4/2)

第6回(4/8)

(2) セミナー

第 11 回生協組合員理事トップセミナー(12/12-13)

- ・ 参加 17 生協 45 名
- ・ 呼びかけ人会議を6回開催し、準備を進めました。当日の司会やファシリテーターなども、8 名の呼びかけ人が分担してすすめました。
- ・ 今回の企画の柱は、①問題提起(講演)をもとに理事活動の立脚点(理事として大切にしたいこと)を深める。②各ゼミナールの課題を深めるとともに、ゼミの論議をとおして、ものごとを多面的・客観的にとらえることを学ぶ、でした。
- ・ 今回の問題提起(講演)は毛利敬典氏に、ゼミナールは、北川太一、杉本貴志、中川順子、浜岡政好の、各研究委員に担当していただきました。

◎講演とグループディスカッション

講演：毛利 敬典氏(教育アドバイザー、当研究所会員)

「一人ひとりの声を聴くことから創る組合員のくらし、生協の役割」

グループディスカッション(ファシリテーター：呼びかけ人)

◎ゼミナール

北川ゼミ---「『地域に根ざす』を考える―農を営む人たちの思い―」

担当／北川太一氏(研究委員、福井県立大学教授)

杉本ゼミ---「生協は社会を変えられるか?―Ethical Consumer を考える」

担当／杉本貴志氏(研究委員、関西大学教授)

中川ゼミ---「暮らしの中の『ジェンダー秩序』を考える」

担当／中川順子氏(研究委員、立命館大学教授)

浜岡ゼミ---「労働と生活の不安定化と貧困化を考える」

担当／浜岡 政好氏(研究委員、佛教大学教授)

(オプションツアー)

「滋賀の地場野菜自然食フレンチ」&「草津宿本陣とその界隈を巡る」

- ・ 今回の開催地は滋賀県の県民交流センター「ピアザ淡海」で、開催地生協であるコープしがには、オプションツアーをはじめとして大変お世話になりました。

(3) 受託調査研究

京都生協「組合員満足度調査」

調査担当：岡本哲弥氏(研究委員・京都橘大学教授)他1名、事務局

- ・ 京都生協新第6次中計にある「組合員満足の向上」についての定量的評価を得ることを目的として、昨年について調査を受託しました。
- ・ 調査2回目の今回は、実質的な取り組みは4月からスタートし、6月にアンケートを実施しました。
- ・ その後の集約、分析を経て、8/27に京都生協へ「報告書」を提出し、説明を行いました。また、京都生協では報告会が2回開催され、岡本哲弥氏が報告しました。

<調査実施の経過>

- 4/14 第1回打ち合わせ(京都生協、研究所)
- 5/21 第2回打ち合わせ(京都生協、研究所)
- 6/1 第3回打ち合わせ(京都生協、研究所)
- 6/10 正式契約
- 6/12 アンケート発送
- 6/30 アンケート投函締め切り
- ※ 最終回収結果：1159票/配布2991票(回収率：38.7%)
- 8/27 京都生協への「報告書」の提出・報告説明
- 10/1 「京都生協所属長会議」で報告(岡本哲弥氏)
- 10/29 「京都生協理事・職員報告会」で報告(岡本哲弥氏)

5. 『協う』、出版物の編集と発行

(1) 『協う』の発行

- 6月号 特集「ネットスーパーと生協を考える」
- 8月号 特集「危機の時代における協同組合の課題(総会記念シンポ特集)」
- 10月号 特集「現代の貧困と協同組合」
- 12月号 特集「『教育』と生協」
- 2月号 特集「障害と生協」
- 4月号 特集「おひとりさまと買物難民」

(2) 報告書、Discussion Paper などの発行・発行予定

- ① 『第17回総会シンポジウム報告集』(通巻54号)---10/2発行
- ② 『生協の内と外から「食」を考える』(Discussion Paper「食の懇話会」編)---11/27発行
- ③ 『第11回生協組合員理事トップセミナー報告集』(通巻55号)---3/15発行
- ④ 『第3回おしゃべりパーティ研究交流会』(Discussion Paper)---(発行予定)

6. 講師紹介・講師活動

- 7/4 地域と協同の研究センター総会記念シンポジウム
講演/杉本貴志氏「イギリスにおける生協の再生に学ぶ」
- 7/23 日生協関西地連 公開研究会
講演/若林靖永氏「世界同時不況下でもうかる生協事業？」
- 9/6 京都府生協連
講演/二場邦彦氏「日本経済・社会の構造変化と生協の課題」
- 9/9 医療生協単協代表者会議
講演/鈴木勉氏
- 9/9 京都府生協理事長懇談会
講演/二場邦彦氏「日本の経済・社会の構造変化と生協の課題」
- 9/12-13 鳥取県産直フォーラム
講演/北川太一氏
- 10/28 福祉クラブ共育協議会
講演/上掛利博氏「危機の時代における協同組合の課題」
- 10/29 パルコープ福祉プロジェクト
講演/鈴木勉氏

- 11/9 日生協関西地連 組合員理事ブラッシュアップフォーラム
講演／杉本貴志氏「これからの生協と組合員理事に求められるもの」
- 11/23 地域と協同の研究センター主催「無店舗マイスター育成研修会」
講演／若林靖永氏「無店舗事業の展望」
- 11/26 日生協関西地連組織委員会での問題提起
「各生協の組合員組織改革について---『生協における組合員参加と組織のあり方』に関する提言(日生協 2006.11)』を参考に」
問題提起／杉本貴志氏
- 12/3 大阪府生協連「生協大会～活動交流会～」
基調講演／若林靖永氏「新しい時代における生協の役割について」
- 12/10 生協しまね理事研修
講演／二場邦彦氏「組合員理事の役割を考える」
- 12/11 パルコープ責任者研修会
講演／二場邦彦氏「経済危機と生協のマネジメント」
- 2010.1/8 日生協医療部会近畿ブロックの研修会
講演／鈴木勉氏
- 1/9 コープしが・新年役職員全体交流会
講演／中川順子氏「地域におけるつながりと生協の存在、そして私たちの役割」
- 2/4 福岡県及び同生活協同組合連合会・役職員研修会
講演／的場信樹氏
- 2/16 京都生協行政区委員交流会
講演／杉本貴志氏「生活協同組合とはどんな組織・事業・運動なのか？
—あらためて考える『コープ』と『スーパー』『宅配業者』の違い、そして組合員活動の価値」
- 2/16 京都府生協連 監事・役職員研修会
講演／若林靖永氏「2010 年生協事業の課題とは何か」
- 2/26 シンポジウム(静岡県協同組合間提携推進協議会(静岡県生協連))
講演／浜岡政好氏「地域づくりと協同組合運動」
- 3/23 コープいしかわ「2009 年度 産直・じわものつどい」
講演／北川太一氏「食と農をむすび協同の力を育むために」
- 4/15 コープこうべ・全所属長会議
講演／杉本貴志氏
- 5/10 コープこうべ・ジュニアボード
講演／杉本貴志氏

7. 機関会議、運営会議

(1) 第 17 回総会

2009 年 6 月 27 日に開催し、2008 年度まとめ 2009 年度方針を確認し、各研究会の研究内容や進捗などについて交流しました。また、第 17～18 期の理事、監事を選出しました。

(出席状況)

- ・ 総会出席 実出席／59 人・団体、委任／108 (計 167)

(2) 理事会、企画委員会

- ・ 企画委員会
第1回(11/6)、第2回(2010年 2/26)、第3回(4/13)
- ・ 常任理事会
第1回(12/10)、第2回(臨時 2010年 2/16)、第3回(4/24)
- ・ 理事会
第1回(6/27)、第2回(12/26)、第3回(2010年 4/24)、第4回(6/26)

(3) 運営委員会、研究委員会

〈運営委員会〉

8月をのぞき、毎月1回開催し、シンポジウムや公開研究会などの研究企画やセミナー企画の検討・具体化をすすめ、研究会活動や諸企画に関わって、くらしと地域、生協と協同組合運動の諸問題についての研究議論をおこなってきました。

〈研究委員会〉

本年は2回の公開企画(研究フォーラム)を開催し、時々テーマにもとづいた議論を行ってきました。また、自主研究会および委員の研究テーマや問題意識の交流などもすすめました。

8. 会員状況

2009年度(2009/3/21～2010/3/20)

個人会員(賛助会員含む)

(入会) 14名

(退会) 9名

計 196名

団体会員(賛助会員含む)

(入会) 1団体 … 生活協同組合ヘルスコープおおさか(医療生協)

(退会) なし

計 39団体

9. 事務局体制

事務局長	李 秀基(※前任者の清水隆の退職に伴って2010年3月10日をもって事務局長を交代しました)
事務局員	長壁猛、大角尚子
客員研究員(非常勤)	久保建夫
院生事務局(非常勤)	望月康平(京都大学大学院法学研究科法曹養成専攻) 加賀美太記(京都大学大学院経済学研究科後期博士課程)

2010年度 活動方針及び予算

<2010年度活動の基調>

当研究所の中心テーマである「暮らし」の向上と「協同の事業」の発展に資する調査研究と学習、研修活動をすすめます。特に、2012年は「国際協同組合年」でもあり、現代社会が直面している暮らしや地域の問題、そこでの協同事業の可能性、そして、生協運動や協同組合運動が直面する課題やその解決方向などについて、活発な研究と討論の場を設けていきます。

- 昨年の第17回総会記念シンポジウムでの議論も踏まえて、協同組合のマネジメント、協同組合における「学習する組織文化」、協同組合法制を含む制度問題と協同組合への影響、協同組合組織における対応とガバナンスのあり方、生協事業と事業連合などについて一層の研究と討論をすすめます。
- 食生活やライフスタイル・購買行動、農と食をとりまく問題、地域の福祉や医療と安心して暮らせるコミュニティの形成など、現代社会が直面する課題とそれにたいする生活協同組合の役割や課題、そして経営、その可能性についての研究を引き続きすすめます。
- 会員と研究所をつなぐ『協う』などの情報媒体と、その企画の充実をすすめます。
- 研究所運営について団体会員とその構成員の積極的な参加をめざして今後の運営の強化方向や改善事項について検討します。

1. シンポジウム・セミナー・研究交流企画

(1) 総会記念シンポジウム

- ① 運営委員会を中心に、実行委員会で開催の準備をすすめます。
- ② 暮らしや地域と生協運動のリアルな状況、研究所の中期的な研究課題、各研究会の活動状況などをふまえて、シンポジウムのテーマ設定や企画づくりをすすめます。
- ③ 事前調査活動など、企画づくりのプロセスでは、会員や団体会員の協力や参画を積極的に求めています。

(2) セミナー、研究交流企画

- ① 第12回生協組合員理事トップセミナー
 - 第12回のセミナーを12月11～12日に開催する予定で準備をすすめます。
 - セミナーの企画は、引き続き会員生協の代表で構成する「呼びかけ人会議」を中心に検討をすすめます。
- ② 有識理事・監事研究交流会
 - 開催について検討していきます。
- ③ おしゃべりパーティ研究交流会

(3) 公開研究会など

- ・ 研究委員会や理事会の開催時とあわせて企画することを基本に、テーマによっては、そのほかの機会にも適時開催していきます。

2. 研究会

(1) 特別研究会

2010 年度については未定

(2) 自主研究会

① 生協と福祉研究会

代表：上掛利博氏(京都府立大学)、ほか6名

(ア) 研究テーマ・趣旨

生活協同組合の福祉の多面的な検討
よりよく生きる(ウェル・ビーイング)という視点から、生活協同組合が取り組んでいる、あるいは取り組めていない福祉の事業や活動について多面的に検討する。

(イ) 研究会の開催計画

月1回の研究会、年に数回の実地調査

② 現代生協研究会

代表：田中秀樹氏(広島大学)、ほか8名

(ア) 研究テーマ・趣旨

現段階の生協の存在形態と展開方向についての実証的研究

(イ) 研究会の開催計画

研究会をメンバーのスケジュールの一致しやすい大学の休み期間に3～4回行うとともに、生協の現状に関する情報の共有を行う。

将来的には、報告書もしくは単行本の形で、研究成果の発表を行うことをめざす。

③ 現代家族研究会

代表：中川順子氏(立命館大学)、ほか4名

(ア) 研究テーマ・趣旨

現代家族のかたちや、家族の内部の、地域とのつながりを、家族のつながり資源という視点から、調査研究を行います。

(イ) 研究会の開催計画

4月から6月に、基本的な集計分析を行い、調査結果の概要を明らかにする。
上記の結果から、さらに分析を深め、報告書作成準備。プレ調査・本調査を合わせて、報告書をまとめる。今年度は、貴重な内容をもつ調査データを生かすために、分析中心に会合を持ち、最終的には、年度内に報告書を作成する。

④ 食育活動研究会

代表:あざみ祥子氏(コンシューマーズ京都)、ほか11名

(ア) 研究テーマ・趣旨

『家族の変容と食』をテーマに、これまでから現在に至るまで会員はそれぞれのフィールドで食育活動(バランスの良い食の提案)を行ってきた。食べることはいのちの問題であり、食べることをたいせつにすることで心身の健康はもとより家族のコミュニケーションの場をつくりきずなを強めることができると信じてきたからである。しかし、昨今発売された『家族の勝手にしょ!』にみられるように食の現場はその家族の変容にさらされ子どもから高齢者まで孤食・個食から勝手食へと限りなく深刻な状況に陥ってきている。今求められているものは何か、家族・食卓の現場から調査・研究し、食育活動の方向を探りたい。

(イ) 研究会の開催計画

例会の隔月開催(年4回)。

ミニ学習会(4回例会時) さまざまな切り口でテーマに迫る。

*家族の現状、*調理のスキルと日本の食文化 *バランスの良い食事
食育実践—親子で挑戦お魚教室(事前・事後アンケート実施)

会員の食育現場訪問(レポート)。

年間まとめと発表(ペーパーにする。シンポ等で発表)。

⑤ 生活圏市場研究会

代表:三好正巳氏(立命館大学名誉教授)、ほか6名

(ア) 研究テーマ・趣旨

組合員の生活圏の構造や買い物行動をはじめとする生活行動の調査研究を通じて地域性を持った生活財・サービス市場の形成と展開を追究する。

(イ) 研究会の開催計画

これまでの報告と討論、また4月初めの常吉百貨店調査の共有化をふまえて、後半からメンバー各自のテーマ・構想の披露・検討、意見交換を行い、まとめの作業に入る。また半公開の中間報告会を開催して、メンバー外の意見も広く参考にしながら、次年度での報告書刊行を目指したい。

⑥ 地域と医療研究会

代表:高山一夫氏(京都橘大学)、ほか2名

(ア) 研究テーマ・趣旨

格差拡大社会における健康医療政策と非営利・協同組織の役割に関する研究

(イ) 研究会の開催計画

テキスト作成に関する打合せを中心に、7月、12月、3月に開催する。
また、医療部会の全国連合会化に関する予備調査と学習会を行う。

⑦ 食の懇話会

代表：北川太一氏(福井県立大学)、ほか6名

(ア) 研究テーマ・趣旨

近年、関心・注目が集まっている食の問題を対象として、「川上(生産)・川中(流通・加工)・川下(小売)、食卓、食文化・食育、まちづくり」など広い枠組みで捉えながら、食に関わる事業・活動と生協・協同組合のあり方を考える。

(イ) 研究会の開催

6月末に開催される総会シンポ・分科会の準備を行う。そのことと関連して、ヒアリング調査、例会を2回程度開催する。7月～3月は上記分科会のふり取り・まとめを行い、本研究会としてさらに深めるべき課題を議論・共有する。これを踏まえて、本年度後期の研究会・調査活動を進めて問題を通した生協(協同組合)の事業、活動、組織問題や食育を通したまちづくりの問題にも焦点をあてていく予定である。

⑧ 尾崎経済思想史サロン

代表：久保建夫氏(研究委員)、ほか7名

(ア) 研究テーマ・趣旨

尾崎芳治先生の深い歴史認識と広い視野に学んで、世界とその歴史のなかで人々(生活者)のくらしやその歴史の変遷および時代時代の生活者像とその協同のありようを考える。

(イ) 研究会の開催計画

先生の体調を勘案しつつ、尾崎世界史論講座の年6回以上の開催と、後半期に公開講演会の開催を目指したい。

⑨ 生協経営研究会

代表：若林靖永氏(京都大学)、ほか5名

(ア) 研究テーマ・趣旨

生協が今日直面する大きな環境の変化に対していかに対応していくかが問われている中で、その問題を「生協経営」の全体的な挑戦、とりくみを調査することを通して、明らかにしようということが本研究会のねらいである。

(イ) 研究会の開催計画

研究会(企画)、研究会(準備)、訪問調査、研究会(振り返り)、報告会というのでワークショップとして、年1回あるいは2回、生協訪問調査を実施する。報告会を開催する。また総会シンポジウム分科会への協力も検討する。報告集を作成する。

⑩ その他

「えひめ・くらしと協同の研究会」と「土佐くらし研究会」については継続する形で調整中です。

3. 会員への情報提供、出版、講師紹介等

- (1) 『協う』の普及(団体会員内の配布数の拡大)をすすめます。
- (2) 研究成果や研究企画の内容を、単行本、通巻冊子、ディスカッションペーパーなど、出版物として会員内外に発信します。
- (3) 講師紹介など、団体会員の要請に応える活動を引き続きすすめます。また、出版や研究企画をとおして会員の参画や会員間の情報交流をすすめます。
- (4) ホームページのリニューアルを行います。

4. 研究所の運営

- (1) 研究所運営への団体会員とその構成員の、より積極的な参加をめざし、これまでの運営のあり方と振り返りを行い、企画委員会・運営委員会・研究会の役割の強化・改善の方向について検討します。

- ① 検討は、運営委員会、企画委員会で行い、常任理事会および理事会に検討結果の報告を行います。
- ② 常任理事会は、検討結果をふまえて、改善事項等があれば、課題を整理して理事会に提案することとします。

(2) 機関会議、運営会議

<運営・企画会議>

運営委員会、企画委員会を軸に、月次・四半期毎の具体化をはかり、研究所の日常活動を推進します。

(運営委員会)

毎月第3金曜(18:30~)開催(日程調整が必要な場合は前後週の金曜日)

(企画委員会)

- ① 定例の開催は年3回とします。
- ② 会議では、必要に応じて研究情報の提供や、現場からの問題提起などを受ける時間を設けます。
- ③ 企画委員会機能の強化・改善の方向について検討します。

<研究委員会>

- ① 開催は年3回とします。
- ② 開催にあたっては、各種研究企画(第1部)と、研究所運営や研究会活動についての議論や交流(第2部)の二部構成を基本として開催します。また、各種研究企画のテーマによっては、研究委員以外も参加できる公開企画とにします。

<理事会、常任理事会、監事会>

- ① 理事会は年3回開催します。
- ② 常任理事会は、定例理事会前を基本に、適宜開催します。
- ③ 監事会は年度最終の理事会前に開催します。

(3) 総会・シンポジウム

第19回(予定日)2011年6月25日～26日

(4) 研究所間の交流、提携

生協、協同組合関係の研究所を中心に、引き続き研究所間の交流をすすめます。

(5) 会員、財政

- 2009年度の結果を踏まえ、経費の効果的運用と圧縮に努めます。また、受託事業や共同研究の拡大をめざします。
- 会員の拡大をはかり、財政の安定をめざします。

以上